

令和4年度 社会福祉法人ポレポレ 事業活動報告書

法人全体のまとめ

今年度、新型コロナウイルスの感染で事業閉鎖を余儀なくされた法人内の事業所は2か所。この影響で給付費にも影響が出ました。

又、「地域の方々とつながり、障害のある皆さんを多くの街の方々に知っていただきたい」と共生を夢みて、NPO 法人なかまの家と共催している「第16回 おもしろ体験子屋」も開催直前に中止にせざるを得なくなりました。

障害者が、この街で一人の人間として尊重され、生きていていただきたいと願う街の人々につながる活動は、停滞が続きました。

そのような状況下、次のような取り組みがすすめられました。

(今年度の取り組み)

- 1 放課後等デイサービス「げんき」新施設完成。なかよしとの多機能型施設として6月に移転。げんきにおける環境整備が整いました。
- 2 職員の生活向上
 - ・時給 980円(960円+20円)から1030円(990円+40円)に引き上げる
 - ・産休取得職員2名
- 3 「虐待防止」「強度行動障害」についての法人全体研修を行い、職員の支援力の向上に取り組みました
- 4 個人の尊厳と尊重を目的とする「虐待防止委員会」を設置、今後、職員への啓蒙及び、研修を進める土台作りをしました。
- 5 NPO 法人なかまの家と共催している「第7回 ひかりの人々展」を日進市民会館展示ホールにて開催。障害者アートの展示を通して、出展者の表現活動への励ましと、多くの方々に障害者への理解を広める機会となりました。作品への評価は、大変高いものとなり、障害者の文化芸術への支援を今後も継続する必要があることが出来ました。
- 6 「四季の里の施設建設を実現する会」が現状にそぐわないという声があがり、親同士のつながりを作ることを目指して親が主体になったポレポレ後援会組織「ポレポレハンズ」が模索されています。
- 7 施設整備と改修を下記のように行いました。
 - ・ハーモニー(生活介護事業所)の庭のフェンスの設置(安全対策)、共同募金会補助
 - ・ポレポレハウス(就労継続支援B型事業所)の水道管破裂による補修工事
 - ・シロアリ予防対策調査
 - ・新車 補助金にて購入(ハーモニー)
- 8 職員確保
 - ・常勤職員(新卒)1名を採用しました。

(見えてきた課題)

- ① 個人の人権と尊厳を尊重する支援を見つめ深める

国連の障害者権利条約の日本政府への総括所見では、日本は、「障害者を弱者、能力の低いも

の」と見ていて「人権の主体、平等な市民としてみていない」「障害は人間の多様性の一部であり、人としての尊厳、人権、自由を等しく共有するものである。」「最善の利益と日本で言われてきたものに対しても、権利、意思および選好を尊重するものでなくてはならない。」と指摘されました。

確かに、その指摘はいろいろな支援の場面で、あたっていると云わざるをえませんが、ポレポレハウス・ハーモニーの皆さんについても、働くことで人間として誇りを持って生きてほしいと支援を深め、できることが増えてきて日々が安定してきているように見えます。しかし、個人の人権と尊厳を尊重するということが、できることが増えてきているという視点だけではないのかもしれないと感じます。街が、生きやすい環境を整備することはもちろん、個人の特性をつかみ、コミュニケーションが苦手な利用者さんの心を読み取り「心を安定させる・自ら選択できるようにする・自らやってみようとするやる気を見つめる」等、「本人の納得を」基本とした、人として平等に認めていく支援が来ているのかを、今一度検証して、深めていくことが、現場での私たちの役割であるようです。皆で深めていく必要があります。

② 親亡き後の不安に向き合う

障害者のライフステージをみつめ幼児から大人までの支援を行ない、グループホームでの自立生活を支える中で、すべての親が潜在的に持っている「親亡き後」の不安に向き合う必要を強く感じ始めました。

個々の障害特性に合った多様な形の自立生活の場ができることを目標に、多くの親の方々と語り合い、現状でできることから一步一步前に歩みを進めていきます。

③ ポレポレ祭りを開催し共生の思いを形にします。

新型コロナウイルスの感染で途絶えていた障害のある方々を地域の皆さんに知っていただき、人々とのつながりを大切にしたい支援を再開する。そのひとつの機会として「ポレポレ祭り in 四季の里フェスタ」を開催する意味は大きいものがあります。

④ 人員確保が質的強化にとって必要

職員の健康管理、余裕は、日々の支援を深くするという点を重視しているものの、職員の確保がなかなか困難な状況は、社会全般の傾向ですが、ポレポレにおいても募集に努力はするものの、なかなか、望む人員が確保できないでいます。今後も、継続して取り組む必要がある。

⑤ 本部及びポレポレハウス（就労継続支援 B 型事業所）の移転の必要性

就労継続支援 B 型事業所ポレポレハウスの施設は、築 46 年。老朽化が各所でひどく進んでいます。

今後あちらこちらの補修をしていかなければならない状況です。又、作業場が道を挟み 4 か所に分断されています。そのことで、利用者の方々の動きや活動がお互いの部署で見えにくくなっており、個々の利用者さんの個別の支援が共有されにくく、職員間の連携が困難な面も見られ、利用者さんへの個別支援の充実にも影響が見られます。一方、利用者の皆さんの生産技術も高まり、一生懸命働く姿が、今の施設では街の方々に知っていただけないのも残念なことです。利用者さんが基本 65 歳まで就労できるポレポレハウスですが、来年度、再来年度の 18 歳になる利用希望者が今後 47 年間、この施設で過ごすのは困難であると不安が持ち上がってきています。そろそろ移転を考えていく時期になってきています。

国連の障害者権利条約を批准した日本において、働く姿を多くの方々に知っていただくことは、人としての尊厳を尊重することとつながることと思います。移転に向けた検討を進める必要があります。

就労継続支援B型事業 ポレポレハウス

1 利用者状況 (定員20名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
開所日数	21	18	22	21	21	21	22	22	12	22	20	23	245
延利用者数	375	318	388	342	355	345	366	369	195	354	337	405	4149
1日平均利用者数	17.9	17.7	17.6	16.3	16.9	16.4	16.6	16.8	16.3	16.1	16.9	17.6	16.9

登録利用者数 3月現在(20名)

障害支援区分 区分1(0人) 区分2(1人) 区分3(6人)
区分4(4人) 区分5(1人) 区分6(1人)
区分判定なし(7人)

2 活動報告

- 商品の値上げを検討・一部商品の値上げを令和5年度より実施検討。
＜値上げ商品＞
お好み焼き150円を200円 250円を300円
施設内給食350円を400円 シフォンケーキ150円を200円
スイートポテト150円を200円
＜現状維持商品＞
焼きそば(350円) みたらし団子(3本300円) アップルパイ(350円)
- 令和5年度・令和6年度の利用希望者5名の実習を受け入れ実施した。
- 令和5年度2名の利用者との利用契約を交わした。1名は令和5年8月利用契約予定
- 家庭の事情で職員1名(非常勤)が退職。補充が出来ないまま年度を終了したが、令和5年度の利用者確保2名(非常勤)と運転手1名の契約を年度内に行った。
- 老朽化により1号館と4号館の水道の配水管が劣化。補修困難にて、新たな配水管設置の補修を行った。
- 利用者1名が事業所利用が出来ない状況になった。相談支援センターと保護者・事業所で今後の支援の在り方について検討。在籍のまま、時間をかけて支援を継続することとなった。
- 新型コロナウイルス感染拡大で12月12日以後2週間の休業となった。
- にしん市民祭りに出店・父母のボランティア・学生ボランティアさんも参加して下さった。
- 日進市農政課・名古屋学芸大学・福祉事業所がコラボして地産地消をコンセプトとする商品づくり開発活動に参加。ポレポレハウスは「山菜おこわごぼう飯」を担当。「端っこマルシェ」で販売することとなった。

3 成果

- 惣菜班の作業が継続されたことで、利用者さんの午後の作業の定着が図られた。
- お好み焼き班に入った利用者さんが、お好み焼きを焼いてみたいという意欲を見せて焼いてみた。

本人のペースを大切にすることで、正確に焼けた。今までにないことで、注目したい。

- 3 コロナウイルスの感染が下火になってきたところで、3人の利用者さんがぐるりんバスで自力通所を始めた。徒歩の通所の方も含めて、6人が自力となってきている。この街で自立して生きる力をつけてほしいとの思いで見つめていくと、他の利用者さんに広がることを期待したい。
- 4 「端っこマルシェ」に参加。地産地消の「山菜おこわごぼう飯」の新商品が出来た。
- 5 にっしん市民祭りに利用者・父母、学生のボランティア・職員で参加。13万9千円の売り上げとなった。徐々に活気が戻ってきた感があった。
- 6 工房班では、作業時間と休憩時間をスケジュール化し、落ち着いて作業に取り組んできている。

4 今後の課題

- 1 利用者の高齢化や体調不良等で、1日の利用者数が昨年度より平均で減少している。20名定員がなかなか達成されない。契約者数を増やす必要がある。
- 2 惣菜班の担当職員が1名なので、休暇の時の職員配置に困難が生じ、継続するには、専属の料理人配置の必要がある。
- 3 年度後半になり、体調不良や家族の事情等で職員の有給休暇取得が多くなったが、休假日の代替え職員配置が出来ず、職員の疲労感を募らせた。疲労がたまらない勤務の在り方を作る必要がある。業務過多気味の常勤職員が送迎をする状況も改善したい。
- 4 工房班の作業で生み出された作品が、一部を除いて商品化することが出来ず、作っている利用者の方々の皆さんへの励ましとなるのは、令和5年度に持ち越された。
- 5 支援の在り方が「心の不安定」を招く事案が起きた。一人一人の人権を尊重するという立場で、今一度、個々の生きづらさに対し、わかり易い支援を行い、「心の安定」をはかる支援力をチームで共有し深めたい。
- 6 販売に行きたいと希望する利用者が適材適所に出向くことが出来るようにし、地域の方々に障害のある皆さんの一人一人を知っていただくようにしたい。
- 7 昨年度には、「区分認定の高い利用者が多いことに鑑み、支援を更に充実するために、多機能型事業所を検討する。」としていたが、築46年の老朽化が顕著になり、このまま五色園施設での事業が継続ができるのかとの不安が増大してきた。そのため、本部及び就労継続支援B型事業所ポレポレハウスの移転計画を模索する必要がある見える。
- 8 公平な工賃のあり方を検討し、改善をしていく。
- 9 新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが出来ない状況が続いた。以前は、利用者の方々は、街の方々の前で誇らしげに販売活動をすることで、活気を見せることができた。令和5年度は、ハーモニーや地域の方々とつながるイベント参加で楽しく明るい気持ちをつくっていきたい。
- 10 移転計画が実現するための資金を可能にするためにも、収入の財源である1日定員20名を支援できる人的な力を高めることと、同時に環境改善も進めたい。

1. 利用者状況 (定員 20 名)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		22	17	22	21	21	22	20	22	20	21	20	23	251
延利用者数	区分4	111	77	89	88	84	92	71	80	71	61	62	57	943
	区分5	143	122	160	144	141	128	112	129	118	92	98	159	1546
	区分6	117	96	129	123	121	147	125	145	134	153	145	177	1612
	総数	371	295	378	355	346	367	308	354	323	306	305	393	4101
1日平均利用者数		16.9	17.4	17.2	17	16.5	16.7	15.4	16.1	16.2	14.6	15.3	17.1	16.3

- ・4月 新規契約者 2名
- ・5月 退所利用者 1名、9月～ 入院 1名、1月 入院 1名
令和5年3月31日現在 登録者数 19名 (区分4:3名、区分5:8名、区分6:8名)
- ・3月末で退所 2名

障害種別人数

障害種別	精神障害	知的障害 (自閉症含む)	身体障害	(若年性認知症)	合計
利用者(人)	1	16	1	1	19

2. 活動報告

①コロナ感染

陽性者が利用者・職員ともに数名出ており、ほぼ家庭内感染だったが、一部送迎車内で広がってしまった件があった。感染防止対策(施設内でのマスク着用、手洗い、手指消毒、施設・送迎車内消毒、換気、検温等)は続けているが、感冒症状があったにもかかわらずすぐに対応できなかった結果、広がってしまったと考えられる。

②授産製品の販売場所の確保

きょうされん販売に合わせてハーモニーの商品のカタログ販売を行い、法人内の利用者、保護者、職員に購入を依頼した。多くの方が購入していただき、売上も多くあった。また、地域のイベントも徐々に再開されるようになってきたため、参加できるときには出店し、そこでの売り上げも多くあった。

喫茶に来てくださったお客様の中で、自身で喫茶店をやられている方がおり、授産製品を気に入って下さり3月からお店に置いていただくことができた。徐々に授産製品の販売場所を広げたい。

③喫茶営業の充実

月～金曜日（祝日を含む）営業とし、営業時間も 30 分延長して営業を始めた。徐々にコロナ前の常連様も来てくださるようになり、新規のお客様も増えてきている。また、団体で予約して下さる方も見られ、売り上げも伸びてきている。

また、PC 班の利用者さんが日替わりで喫茶業務に入るようになり、お客様とのやり取りも少しずつ行っている。どの利用者さんも自分の担当曜日をきちんと把握しており、やりがいをもって積極的に取り組むことができている。

3. 成果

- ・公益財団法人 J K A の補助金を受託し、8 人乗りのノアを購入した。半導体不足により当初の予定より約 2 か月遅れての納車となったが、きちんと整備された車で送迎ができるようになり、長距離送迎も安全に行うことができるようになった。
- ・赤い羽根共同募金の補助金を受配し、施設周辺のフェンスと玄関前の門扉を設置した。安全なフェンスと門扉ができたことで、利用者さんがのびのびと庭で過ごすことができるようになった。また、朽ちていた竹のフェンスが撤去されたことで、地域の方々も安全に歩道を歩くことができるようになった。
- ・授産製品の売り上げが上がってきたことで、年度末に利用者さんにボーナスを支払うことができた。日頃頑張って作業に取り組んでいる報酬が得られることは、日々の作業のやりがいにもつながると思う。

4. 見えてきた課題

①物理的環境の整備

令和 5 年度から 4 名の新規利用者さんを受け入れ、登録者数 21 名となり事業所内のスペースはいっぱいになってしまう。平均利用者数は約 19 名となる見込みであと数名は受け入れ可能だが、物理的環境により登録者数を増やすことは現段階では難しい。

敷地内に別棟を作ることでスペースを確保し、非常時に対応できる場を設けること、支援しやすい環境づくりをしていく必要がある。

②支援力の強化

利用者さんの人数も増え、多様な支援力が必要となる中で、職員数にも限りがあり、臨機応変に対応できる力も求められてくる。所属班だけでなくハーモニー全体で利用者さん一人一人に合った過ごし方や支援方法を考えていく必要がある。

③授産製品の販売ルートの拡充

今までの販売方法に加え、ネットショップをオープンし、授産製品が多くの方の目に届くようにしていく。それにより、ハーモニーの活動にも興味を持ってもらう。

④余暇活動プログラムの充実

日々の決まった日課の作業だけでなく、余暇活動も充実させていき、作業を『頑張る』ことと余暇を『楽しむ』ことのメリハリを持った生活ができるようにしていく。

共同生活援助事業 なしの木ホーム

1. 利用者状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
開所日数	26	26	26	26	27	26	26	26	14	24	24	27	298	
延利用者数	区分2	52	45	52	52	41	52	51	52	24	48	45	51	565
	区分3	26	26	26	26	25	24	26	25	9	24	24	27	288
	区分4	50	30	26	26	19	21	24	24	12	18	38	48	336
	区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	22	25	71
	総数	123	100	102	100	85	97	101	100	45	114	129	151	1250
平均(人)	4.7	3.8	3.9	3.9	3.1	3.7	3.8	3.8	3.2	4.7	5.3	5.5	4.19	

- ・ 5月 男性1名退所。
- ・ 1月2月3月 男性2名 体験入所
(うち1名 2月より入所、1名は4月より)
- ・ 12月 新型コロナ感染者2名 7日間閉所。

2. 活動報告

- ・ 入所者一人ひとりの「自立生活」を目標に支援を組み立てた。
- ・ 夕食はみんな揃って『いただきます』。朝食は、自分の出勤時間に合わせて銘々に摂ることにした。
- ・ コロナ禍であったため、なるべく部屋で自分時間が過ごせるようにアドバイスするとともに掃除や整理整頓(冷蔵庫の点検)など職員と一緒にいった。
- ・ 健康に過ごすことを意識し、天気の良いときなどに帰所後15分から30分の散歩を取り入れた。
散歩に行かれない日は、リビングでラジオ体操を行った。スタンプカードを作りポイントをためてご褒美をGETできるようにし、楽しんで運動できるように工夫した。
- ・ 集団生活の中で社会性を身につけるため、問題が生じたときには、みんなで話し合いをした。そして、それぞれの気持ちを確認し、一緒に考える習慣をもった。
- ・ 誕生会やクリスマス会などの楽しいイベントを計画し、みんなで取り組んだ。
- ・ 避難訓練を月に1回(朝勤の時間滞、夕勤の時間帯、夜勤の時間帯)、地震・停電など様々な状況を想定し実施した。訓練実施後、反省会をし、どんなことに気を付けたらいいのか意見出しをした。

- ・ 建築5年目、シロアリ予防（外周薬剤塗布）
- ・ エアコン清掃（各部屋実費請求）
- ・ 洗濯機の脱水ができなくなり、購入した。

3. 成果

- ・ 2名が入所、定員6名が満員となった。
- ・ 一人ひとりの生活リズムが整ってきたため、各自の「自立生活」目標がはっきりしてきた。リビングで何となく過ごすことが減り、目的を持って自分の部屋で過ごすことが増えてきている。
- ・ 避難訓練を繰り返し行っていることで、「地震が来たら、停電になったら自分は何をしたらいいか・・・」等、思いついて、自分で行動できるようになっている。自分の家から懐中電灯を持ってきた人もいる。部屋が片付いていないと危ないことに気づき、部屋を片付けるようになった。
- ・ みんなで話し合い、協力することができてきた。
（自分の要求を職員に伝える⇒みんなで話し合う場に参加する⇒意見を言う⇒決めたことを実行する）といった社会性が少しずつ身についてきた。

4. 見えてきた課題

①医療体制を整える。

- ・ 集団生活であるため一旦感染者が出るとホームでは対応が難しい。今年度12月はポレポレハウスの集団感染の影響で、ホームも2週間近く閉所となった。入所者個々の通院については、保護者の管理でお願いしているため、常に保護者と連携を取り、通院の情報共有をする必要がある。

②建物のメンテナンス

- ・ 毎月の実費請求以外にも費用が掛かるようになってきている。前年度から今年度にかけて2名の退所を期に各部屋のエアコンの掃除をさせてもらったが、費用を徴収するにあたってクレームがついた。洗濯機も新しいものを購入したが、その支払いについて契約時に決めていなかったため、事業所で負担をした。今後も建物自体のメンテナンスに費用がかかるようになってくるため、保護者と共に検討を加えていく。

③家族と共にライフステージを考える

- ・ 保護者（兄弟姉妹）と共に個々のライフステージについて見解を深め、本人のニーズがどこにあって、どうすれば実現できるのか、本人の上手く言葉にならない思いに寄り添い、対応を進めることが必要。

併設型短期入所事業 チャレンジホーム

1. 利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延利用日数		4	1	7	10	8	8	12	12	6	6	0	2	76
延べ利用者数	区分3	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3
	区分4	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	9
	区分5	2	0	1	3	1	1	1	2	1	0	0	1	13
	区分6	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	4
	総数	2	1	2	4	3	3	4	5	3	1	0	1	29

- ・1日 定員1名
- ・現在登録者9名（ポレポレハウス 2名 ハーモニー 7名）
- ・緊急目的利用 1名（あとは宿泊訓練的利用）
- ・法人外部からのご利用希望の問い合わせが増えている。

2. 活動報告

- ・法人内の日中活動事業所を利用されている方のみ受け入れている。
- ・緊急時のご利用は1件のみ、ほとんどが、宿泊体験としてのご利用となっている。
- ・2名の方がなしの木ホーム入所を目指して利用を始めた。

3. 成果

- ・法人内の日中活動事業所を利用している方を利用条件にしているため、事業所間の連携、保護者との事前打ち合わせがスムーズにできており、当日の利用についても問題なく行うことができている。
- ・なしの木ホームの入所者も事前に情報が分かるため、混乱することなく受け入れができていく。
- ・なしの木ホームの日課に沿って過ごし、帰所後の散歩や誕生会などのイベントにも参加した。

4. 見えてきた課題

- ・特別支援学校の中等部でショートステイの利用を奨励していることから、三好特別支援学校中等部の保護者より、チャレンジホームの利用希望の問い合わせがあった。将来の自立を目指して少しずつ親から離れて暮らす体験は、早くから重ねたほうが良いと思われる。今年度検討をし、法人内の放課後等デイサービス利用の中高生のチャレンジホーム利用について考えたい。また、ポレポレハウスやハーモニーの利用者に対しても積極的にチャレンジホームを活用して頂けるようPRを行い、それぞれが将来のライフステージを見据えて生活できるようにサポートしていきたい。

地域活動支援センター事業 わとと

※今年度、コロナ禍において、各事業所の状況等から鑑みて、職員配置が難しく

地域活動支援センターわととの活動は休止いたしました。

児童発達支援事業 なかよし

(定員4名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	8	7	9	8	10	8	12	12	12	12	12	12	122
延べ利用 人数	29	29	51	37	30	32	41	36	44	40	44	51	464
1日平均 利用人数	3.6	4	5.6	4.6	3	4	3	3	3.6	3.3	4	3.9	3.8

【利用者状況】

今年度は4月の時点で母子通所対象利用者がいなかった為、開所2日スタートとなる。

単独は引継ぎ利用者が7名おり、その内2名が週2利用。6月から3名になる。

8月、9月は体調を崩し休む利用者やコロナウイルス感染関係、幼稚園、保育園行事での欠席が多かった。

1月の後半から母子療育の人数が6名になる。

3月、4月入園の利用者2名を単独保育に移行する。

1月から3月は体調を崩し休む利用者が多かった。

8月1名引っ越しで退所となる。

【職員体制】

8h常勤パート1名

保育士 2名 (週2)

幼稚園教諭 1名 (週1)

指導員 1名 (週2)

2. 活動報告

- ・4月から新施設での療育を開始する。
- ・個別療育の部屋を用意することで、落ち着いた環境で個別療育ができています。
- ・主担任を配置して取り組んでいることで、療育内容が安定し提供できています。
- ・集団を意識した活動内容を会議や朝のミーティングで話し合うことが出来ています。
- ・四季折々の活動を行い、工作や活動に盛り込んでいった。また、支援員と子どもが触れ合って遊ぶふれ合い遊びを多く取り入れ、家庭でも出来る遊びを伝えてきた。
- ・夏は駐車場にプールを用意し水遊び体験を楽しむ。
- ・9月、遠足を実施。単独保育で東山動物園、愛知牧場
- ・日進市社会福祉協議会からサンタさんのボランティアを依頼しクリスマス会を行った。

- ・2月3月で保護者面談をした。
- ・母子療育の際に下のお子さん連れをすることで空気清浄機を購入し環境に配慮した。

3. 成果

- ・新施設での療育を開始し、昨年に引き続き中心になる職員を配置したことで、療育の内容を安定して提供できている。
- ・コロナ禍ではあるが、感染予防をしっかり行い休業することなく営業できた。
- ・保護者との情報共有や相談など気軽に受けることが出来ている。
- ・広い部屋での活動が可能のため、身体を思いっきり動かした療育が提供できている。
- ・新施設に移動したことで放課後等デイの長期休みでも営業ができた。

4. 今後の課題

- ・毎年度、利用者確保や職員確保に苦戦している。行政や相談支援と相談し、今後の発達支援事業の進め方を検討していく。

放課後等デイサービス事業 げんき

(定員 10 名)

1. 利用者状況(平日/休日)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所 日数	21 (15/ 6)	19 (17 /2)	22 (22/ 0)	21 (13/ 8)	20 (3/ 17)	22 (20/ 2)	20 (20/ 0)	22 (20/ 2)	20 (17/ 3)	20 (16/ 4)	20 (18/ 2)	23 (14/ 9)	250 (191/ 59)
延べ利用 者数	211 (199 /55)	210 (193 /17)	240 (240 /0)	213 (135 /78)	200 (13/ 187)	230 (212 /18)	206 (198 /8)	234 (221 /13)	225 (193 /32)	200 (172 /28)	213 (200 /13)	224 (196 /28)	2606 (2159/ 447)
1日平均 利用者数	10	9.5	10	10	10	10	10	11	10	10	10	9.7	10.3

【新規利用者】

新一年生 3名 三好特別支援学校2名 市内2名

【登録人数】 20名

(学年内訳) 中学生2年 2名

小学生5年生3名、4年生3名、3年生4名、

2年生4名、1年生4名

(市内内訳) 日進市：13名みよし市：2名 長久手市：4名 東郷町：1名

※新規1年生が4名入る。2名が週4日。1名が週2回。1名が週1日。

※平均利用者人数は10名と定員確保できた。曜日によっては15名受け入れる曜日もあった。

※4月から8月まではどの曜日でもコロナウイルス感染の濃厚接触者及び本人が感染したことで長期的に休み利用者がいた。

※9月、11月、12月、1月と4名の利用者が退所となる。理由としては2名が親の帰郷に帰った。1名は習い事が増えた。1名が他の事業所にかわった。

※東郷町から新規利用者5年生1名 週2日利用が11月に決まる。1月から利用開始。

2. 活動報告

- ・6月の移転に向けて4月5月は新施設を利用して活動する機会を作り環境に慣れる練習を行った。
- ・6月に新施設に引っ越しをした。
- ・夏休み、新施設の庭にて大きなプールを出して水遊びの活動を毎日午後から行うことが出来た。
- ・指導訓練室が二部屋あることで、利用者の活動に合わせて分かれて支援することができるようになった。そのことにより利用者は落ち着いて過ごせている。
- ・夏休み期間、児童発達支援事業所なかよしと共有する時間帯でふれあい遊びを一緒に行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策（定期的な換気、手洗いうがいの徹底、備品等の消毒など）を活動中も意識し徹底して行った。
- ・6月、7月、2月、3月に保護者面談を実施する。
- ・毎月誕生会を行った。

<主活動の報告>

工作・・てんとう虫、かたつむり、父の日ネクタイ、てるてる坊主、七夕、風鈴、

花火、お月見ウサギ、とんぼのめがね、クリスマスカード、リース、アルバム作りなど季節に合わせた工作に取り組んだ。

クッキング・・毎週水曜日にその月に合わせたメニューを提供し、子供たちができる工程を考えおやつを作りした。

音楽活動・・楽器を用意し、子供たちの好きな曲で楽器演奏を楽しんだ。

曲に合わせてダンスや体操を行った。

運動活動・・室内では鉄棒、マット、トランポリン、バランスボールなどで身体を動かした。庭では砂遊び、なわとび、鬼ごっこなどで身体を動かして活動した。

夏休みには毎日プールを行った。

3. 成果

- ・新一年生が入った時はまだ本郷施設だったが、環境や職員にもすぐに慣れ落ち着いて過ごせている。
- ・6月に岩藤の新施設に引っ越しができた。
- ・引っ越ししたことで環境が変わったが、週の活動は安定して提供できていることで利用者も落ち着いて活動に参加できている。
- ・4月に新施設の内覧会を開催したことで、行政や保護者様に放課後等デイサービスげんきの事や法人の事業の内容の話ができた。
- ・新施設に十分な指導訓練室や環境整備が整っているので安全に支援が出来、充実してきている。
- ・退所する利用者がいたが、タイミングよく日数を増やしたい利用者や新規利用者が入り、平均10名で終わった。

<職員体制>

- ・新卒採用の常勤を配置した。
- ・6月から男性パート職員をハウスとの兼務だが配置できた。
- ・児童発達支援事業所なかよしのパートと連携をとり、人での足りない時間帯にヘルプとして入ってもらえる体制作りができた。

4. 見えてきた課題

- ・低学年層の利用者が増え、身辺自立支援が必要な利用者が多く支援内容の見直しをしていく。
- ・三好特別支援学校、瀬戸つばき支援学校、市内4ヶ所、東郷と学校により下校時間が異なることから一緒に行える活動ができない時があり、支援の流れなど工夫していく必要が出てきている。また、送迎に職員を配置してしまうと事業所内で待機している職員が必要になるので配置の工夫がいる。また、パート職員の補充をしていく。
- ・送迎車が2台ともに13万km越えであるため、来年度購入に向けて補助金申請を視野に入れて動いていく必要がある。
- ・障害の特性など様々な利用者様に合わせた支援の向上の為、職員の支援スキルアップをしていく必要がある。
- ・年齢層が低い為、病欠で休みが多く入るので、休みが入ることを見越して利用者確保をしていく必要がある。

放課後等デイサービス事業 えがお

(定員 6名)

1. 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
開所 日数	21	19	22	21	20	22	20	22	20	20	20	23	250	
	16	19	22	13	3	20	20	20	17	17	19	17	203	平日
	5	0	0	8	17	2	0	2	3	3	1	6	47	休日
延べ 利用者数	108	102	118	118	109	115	112	135	110	123	122	134	1406	
	81	102	118	77	14	108	112	124	94	108	119	101	1158	平日
	27	-	-	41	95	7	-	11	16	15	3	33	248	休日
1日平均 利用者数	5.1	5.4	5.4	5.6	5.5	5.2	5.6	6.1	5.5	6.2	6.1	5.8	5.6	
	5.1	5.4	5.4	5.9	4.7	5.4	5.6	6.2	5.5	6.4	6.3	5.9	5.7	平日
	5.4	-	-	5.1	5.6	3.5	-	5.5	5.3	5.0	3.0	5.5	5.3	休日

【新規利用者】

新年度の利用に合わせて利用者8名が「デイサービスポレポレ」に移籍し、「げんき」からの繰り上が

り加入は4名に留まったため、「えがお」在籍の利用者は減る状況となった。

新規の利用者は4月に2名が加入、6月に1名、7月に1名が加入している。年度初めの頃から数か月の間に増えているが、以降は変動のない状態が続いた。

【登録者数】 17名

利用者の学年別内訳は以下リストのとおりである。利用者の通う学校は、特別支援学校2校に加えて市内の小中学校が4校あり、利用状況に応じて送迎が必要となっている。

- 高校生1名（3年：1名）
- 中学生12名（3年：1名、2年：8名、1年：3名）
- 小学生4名（6年：3名、5年：1名）

2. 活動報告

常勤職員の異動

新年度の利用者移籍に合わせて常勤職員も異動となり、職員体制や活動の進め方の違いなど、細かな環境の変化から利用者が落ち着かない状況となっていた。5月頃には徐々に体制が整い利用者も落ち着いて過ごせるようになり、以降は比較的安定した支援環境を提供することができた。

曜日ごとの主活動

クッキング・運動・音楽・制作など、曜日ごとに主となる活動を大まかに決めて行った。主活動に全体で一緒に取り組む時間を作り、終わった後は自由時間で個々に好きな活動をするという形で、活動を通して共同で作業する時間や、個別に対応する時間を様々な関わり方が取れるような流れにした。

その他の活動

《お手伝い》

机の消毒係や連絡帳を配る係など、毎日の活動の中で利用者に役割を持ってもらい、お手伝いをしてもらった。利用者一人ひとりができる範囲で役割をこなすことで、やりがいを感じて取り組むことができるようにした。

新型コロナウイルス感染予防対策

今年度も新型コロナウイルスの感染予防対策として、引き続き事業所内では法人のマニュアルに沿って毎日の消毒、検温などを行っていった。しかし、利用者の中には本人やご家族が感染し、欠席となる場合が出ており、対策の難しさを感じた。幸い事業所内で感染が広がることはなく、また社会情勢の変化から学校が休校となることも減ってきており、事業は通常通り営業することができた。

3. 成果

職員異動や産休、新型コロナによる休みなどの支援体制上で厳しい状況が続いていたが、安定したサービス内容を提供することができた。

利用者や保護者からの紹介で新規利用者2名と契約することができ、平均利用者数を定員6に近づけ

ることができた。11月、1月、2月は平均6を超えており、新型コロナ等で急な欠席も多かったことから、定員に近い利用者数で営業できている。

4. 見えてきた課題

利用者数の安定化

曜日によって利用者の人数に差が出ており、月曜日は8～9人、木曜日は2～3人など、ギャップが大きくなっている。もともと定員が6人で平均の利用者数が少ないこともあり、複数の欠席者が出ると人数が一気に少なくなり、利用者同士の関わりが作りにくくなっている。利用者の確保においては、「げんき」と連携していき小学校高学年の利用者の移籍も検討していく。

活動内容の変化

今年度3月で高校生の利用者が卒業し、中学生の利用者も一部デイサービスポレポレに移行することから、利用者としては小学校高学年から中学校までの年齢層になってくる。全体として低年齢化してくることから、活動の内容を利用者の興味に合わせて変えていく必要が出てくる。

加えて、保護者のニーズとしては、毎回同じような活動をするのではなく多様な活動を行って欲しいという意向があり、固定化するのではなく活動のバリエーションも追加していけるとよい。

職員の確保

市内の小中学校に通学する利用者が多いことから、総数として6校の学校へ送迎に行く必要が出てきている。下校の時間帯も重なることが多く、送迎に出る職員が複数いる中で事業所内での活動を進めていかなければならない状況になっている。

また、職員の生活環境の変化により、出産や子育て、介護などで休職や欠勤する者がみられるようになってきている。安心して休むことができ、職員負担を軽減しながら事業を安定して実施できる環境をつくる必要がある。

支援の質の向上

利用者がそれぞれの学校から時間差で通所してくる分、職員も個々の動きになる時間が長くなっている。サービス提供前後の時間で、日々の支援の振り返りや子どもたちの教材の作り込みなど職員同士でコミュニケーションを取っているが、限られた時間の中で行っているため、支援に対する意思の疎通が不十分になることがある。

また、年度初めの異動や職員が欠勤した時など体制の変化により落ち着かない状況があったことから、職員が入れ替わっていても子どもたちが安定して有意義な活動に取り組むことができるように、職員一人ひとりが活動の場面を支えていけるような支援の質の向上を目指していく。

放課後等デイサービス事業 デイサービスポレポレ

(定員 10名)

1. 利用状況(平日/休日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21 (15/6)	19 (17/2)	22 (22/0)	21 (13/8)	20 (0/20)	22 (19/3)	20 (20/0)	22 (20/2)	20 (17/3)	20 (16/4)	20 (18/2)	23 (14/9)	250 (191/59)
延利用者数	142 (103/ 39)	137 (123/ 14)	156 (156/ 0)	147 (89/5 8)	145 (0/14 5)	171 (152/ 19)	151 (151/ 0)	169 (152/ 17)	154 (127/ 27)	157 (126/ 31)	165 (145/ 20)	187 (87/ 100)	1881 (1324/557)
1日平均 利用者数	6.8	7.2	7.1	7	7.3	7.8	7.6	7.7	7.7	7.9	8.3	8.1	7.5

【登録人数】 22名

【新規利用者】 4月から11名（えがおから移籍）、新規利用4名

2. 活動報告

えがおからの移籍が11名、新規利用が4名とメンバーが大きく変更になった今年度であったため、活動内容もそれぞれの能力や特性に合う内容へと変更して行った。えがおから上がった利用者が多いことに伴い、常勤職員も異動することで、それぞれの利用者の特徴を知っている利点を活かして支援を行うことが出来た。そのため、大きく崩れる利用者も出ずに一年通して活動を行っていくことが出来た。

曜日ごとの活動

各曜日でプログラムを組んで、毎日通う利用者に対しても、色々な経験が出来るようにしてきた。

《月曜日》

クッキングを行った。手順書を用いたり、手本を示すことで落ち着いて取り組むことが出来ていた。また、今まで食べたことがないものも作って食べることで食べる事が出来るようになった利用者もいた。

《火曜日》

運動を行い、晴れの日には運動公園へ行き、ウォーキングを行った。雨の日には、デイポレ内で体操を行った。体操は、その時の流行りのダンスなども取り入れて行って来た。体操は、少し飽きも見られてきたため、今後の課題となっている。

《水曜日》

個々の能力に合わせた個別学習を行った。名前の練習やひらがな、カタカナの練習から、時計の読み方やお金の計算など実生活に関わる学習を行って来た。

《木曜日》

アイロンビーズや自立課題などの作業を行った。作業では、自分で行うことが出来る内容を行い、一人でできたという、それぞれの達成感につなげることが出来るように行って来た。また、月に1度

はクッキングも行ってきた。

《金曜日》

季節の創作活動を行ってきた。活動で作った作品は、ハーモニーの喫茶店に飾るなど、色々な方に作品を見てもらう機会も設けることが出来た。

3. 成果

障害者施設(ハウス・ハーモニー)との連携

就労を見据えて実習を行う際などに、利用者の様子を事前に伝えるなど情報共有を行ってきた。また、実習の様子を見させてもらったり、デイポレにハウスやハーモニーの職員が様子を見に来るなどの交流も行うことが出来ていた。今後も継続して情報共有を行っていく。

事業所施設建物の契約年数

現在事業所として使用している建物は借家であり、家主との契約が残り4年となっている。契約を延長できるかは不明な状況であったが、家主とのやり取りの中で契約延長をしてもらえる旨の話が出来た。

4. 見えてきた課題

定員人数の確保

上半期に比べ、登録者数は変わらないが、実利用者数は増加することが出来た。しかしながら、定員には満たない状況のため、今後も新規の利用者獲得や現状利用者の利用日を増やせるように目指していく。相談支援等への働きかけを継続していく必要がある。

放デイとしての職員確保

放デイとして職員不足のため、職員の確保を早急に行っていきたい。特に男性職員が不足しているため、男性職員の確保をしていきたい。また、現行の職員も高齢化してきているため、入れ替わりを図りたい。

活動内容の見直し

火曜日の体操の時間など、利用者に対し飽きが見られるため別の運動も取り入れるなど、活動を見直していけると良い。